

令和 7 年 6 月 19 日

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和 7 年 6 月 19 日
開会 10 時 00 分 閉会 11 時 23 分
- 2 場 所 幕別町役場 3 階会議室
- 3 出席者 委員長 小田新紀
副委員長 野原恵子
委 員 塚本逸彦 内山美穂子 酒井はやみ
荒 貴賀 岡本眞利子 田口廣之
副議長 中橋友子
議長 寺林俊幸
オブザーバー 石川康弘
- 4 傍聴者 畠山美和 山端隆治
- 5 職務のため出席した議会事務局職員
事務局長 佐藤勝博 課長 岩岡夢貴 係長 渡辺 優
- 6 審査事件及び審査内容(別紙)
 - 1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて(第 8 回)
 - (1) 常任委員会のあり方について
 - (2) 今後の進め方について
 - (3) 次回の委員会の開催日程について
6 月 25 日(水)の本会議終了後に議場で開催することとした。

議会運営委員会委員長 小田新紀

◇審査内容

1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第8回）（10：00～11：23）

○委員長（小田新紀） ただ今より、議会運営委員会を始めます。

本日は、議員定数及び議員報酬等の見直しについて8回目の会議を開催いたします。

議案の1、常任委員会のあり方についてを議題といたしますが、今回新しい委員になってこの議題について話をするのは初めてになります。

多くは変わらない委員ではあるのですが、その前の委員の中で7回ほど、いろんな議論が出るなかで、こういった視点で話し合いをしたほうがいいのか、こういった視点で意見を出したほうがいいのかというようなことを積み上げてまいりました。

最終的には、住民と議会の距離を縮めるための方策の話も前回までにしてまいりました。本日は幕別町議会において委員会中心主義をとっているということもあり、その中で、常任委員会のあり方、議会としての本来の役割を果たすためには、こういった形がいいのかといった視点で、みなさまからご意見をいただきたいと思っております。全員協議会等で、いろんなご意見もいただきながら、報酬との絡みというようなお話も、話題になったこともあるわけなのですけれども、本日の話のなかでは、その視点は別に置いて、財政とかそういったことは置いておいて、先ほど申し上げたとおり、本来の幕別町議会として役割を果たすために、こういった常任委員会の数や人数、そういったことも含めた構成がどうあるべきなのかということについて、ご意見を賜りたいと考えております。

あとで、今後のスケジュールについても、ちょっと話をしたいと思っておりますが、いつまでもというわけにはいかないと思いますし、一定程度、こちらのほうでは、常任委員会の議論を最終的に踏まえた上で、次回あたりに議員定数については方向性を見いだしていければなという思いではおります。もちろん、いろんな議論がまだまだ必要だということであつたりとか、こういった視点で話し合うべきということがあれば、さらに積み重ねていきたいなと思いますけれども、今の段階での考えとしては、この常任委員会の議論でというような思いでいますので、そういったことも踏まえながら、ご意見をいただければと考えているところであります。

今回、参考資料ということで、他の市町村の状況等で、常任委員会の設置、開催状況がありますが、この資料について、まずは事務局の方から説明を求めます。

議会事務局長。

○事務局長（佐藤勝博） それでは、常任委員会の設置、開催状況について資料の説明をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

本資料は、全国町村議会議長会が令和7年2月にまとめた実態調査の結果から抜粋したものであります。

1につきましては、令和6年7月1日現在の道内129の町における常任委員会の設置状況について記載したものであります。

下線については、人口が2万人から2.5万人未満で、本町と人口が同規模の町を表しております。

(1) につきましては、広報広聴委員会を含めて、4常任委員会を設置してござ

すのは本町と別海町の2町であります。

それから(2) 広報広聴委員会はなく、3 常任委員会を設置しているのは、音更町含めて5町であります。

(3) につきましては広報広聴委員会を含めて3 常任委員会を設置しているのは、白老町含めて35の町であります。

そして(4) は、広報広聴委員会はなく、二つの常任委員会を設置しているのは、新ひだか町を含め64の町であります。

そして(5) につきましては広報広聴委員会を含めて、二つの常任委員会を設置しているのが4町、(6) は広報広聴委員会はなく、一つの常任委員会を設置しているのが19町であります。

2につきましては、道内129の町における、広報広聴委員会を除く常任委員会の設置割合を記載したものであり、本町のように三つの常任委員会を設置しているのは、7町、割合にして5.4パーセント。二つの常任委員会を設置しているのが99の町、割合で76.8パーセント。一つの常任委員会を設置しているのは23町で、割合では17.8パーセントとなっております。

これを見ると、道内の4分の3以上の町が二つの常任委員会で構成をしているという状況であります。

次に資料の2ページをご覧くださいと思います。

3、本町の各常任委員会の開催状況について、各年1月1日から12月31日までの1年間で、直近5年間における各常任委員会の開催状況を記載したものであります。

この間では、所管事務調査を含めて、各委員会で、年間で8日から16日の範囲で開催している状況となっております。

簡単な資料ではございますが、説明は以上であります。

○委員長（小田新紀） 説明が終わりました。

それぞれの町の実際の状況については、なかなか掴めない部分もあるのですが、あくまでも数字というところになりますけれども、(1)、(2)のところ、幕別町は4 常任委員会となります。

そして(2) 3 常任委員会とありますが、広報広聴委員会が、わが町においては常任委員会という位置づけでありますので、(2)の町は、その他にも常任委員会ではないですが、広報広聴委員会があるのではないかとということが予想されますので状況としては(1)と(2)は似たような状況ということで押さえていただければと思います。

この中でもいろんな視点での話になるかなとは思いますが、さしあたって、一つの常任委員会における構成人数について、みなさまからまずご意見をいただければと考えます。

その前に資料について、ご質問等ございましたら、まず挙手をいただければと思います。

(なしの声あり)

○委員長（小田新紀） よろしいでしょうか。

では、構成人数について、感想、ご意見等をいただければと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 数値的なことなのですが、大体1 常任委員会、ニーズにおいて

6から8名で構成しているところが多いですね。それよりも少ないところは、重複しているというところも聞いたことがあります。となってくるとやっぱり全体の議員の数によって、三つの常任委員会にするのか、二つにするのか、また議員の総数が多くても、委員会を二つに絞るのかという方法と、やはり委員が少ないので、やっぱり六、七人は1常任委員会あたりいるとなれば、議員定数が減ると、必然的に二つの常任委員会になっているのかなという印象は感じましたので、やっぱり一つの委員会に最低でもそのくらいの人数は必要だと。3人とか4人のところはないので、そういった部分もあって、やっぱニーズに応じて、委員会の数も比例しているのかなと感じました。

○委員長（小田新紀） そのほか、いかがでしょうか。

酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 私も委員会の数は別にして、各委員会に6人から8人というのが全体的な特徴なのかなと思いました。

以前に議会のあり方の講演を受けたときにも、委員会に一定の数は必要だというお話もあって、やっぱり議論をきちっと保障していくためにはそれだけの人数が、一つの委員会にいるということはあるのかなと思いました。

○委員長（小田新紀） そのほか、いかがでしょうか。

幕別町のことを考えてこれまでの話し合いの中でも、委員会の人数についてはこれ以上減らすべきではないというような話もあったりとか、そうではないのだというようなご意見もあったと思うわけですが、今、幕別町においては、6人、7人といったところでありますが、それについてこのぐらいの数字がいいのではないかと、あるいはもうちょっと減らしても大丈夫なんじゃないかと、機能を果たせるのではないかと。もっと言えばもっと多いほうがいいのではないかと、そんな視点でまたちょっと、ご意見をいただければと思います。

田口委員。

○委員（田口廣之） この議論始まるときに、最初に、全員から定数はどうだっていうことを2回聞き取りしましたよね。そこからこれ始まっているので、みんなの顔を見たら、減らす人、増やす人、そのままでいい人という顔が見えてしまって、なかなか意見を言いづらいのですけども、私は議員定数を維持という意思表示をしたのですけど、やはり議論とか、そういう話し合いをする場においては、幕別町の人数は適正ではないかなと思っています。

○委員長（小田新紀） 荒委員。

○委員（荒 貴賀） 他のところはちょっとわからないのですが、幕別町の場合は総文、民生、産建なのですけど、そこに実は忠類のことというのが加わっているのですよね。ほかのところのことわからないのですけれども、比べるとやはり一つの委員会で持つべき所管というのは、少し増えているのだらうと思っています。こういう状況があるにも関わらず、以前、統合してはどうかという話もありましたけれども、さらに統合して、所管が増えて、人数をそこに合わせますと、私たちが今取り組むべき委員会の活動が、よりよいものになるのかということ、またそこはどうかかなと。委員会がどうのこうのじゃなくて、今の7人、6人、6人を考えて、これ以上減らすとか、どうこうするってことにはならないぎりぎりのところに来てしまったのではないかなと私は感じています。

○委員長（小田新紀） そのほか、いかがでしょうか。

内山委員。

○委員（内山美穂子） 資料を見まして、この幕別町の広報広聴委員会を除いて、3 常任委員会あるのですけれども、その中の一つひとつの常任委員会としての人数というのは、これ以下にするというのはなかなか難しいのかもしれませんが、常任委員会に適している人数を6 人とかと考えたときに、常任委員会自体を再編する可能性も議論していくべきではないかと思います。

○委員長（小田新紀） そのほかいかがでしょうか。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 常任委員会ということで、最初話になっておりますが、やはりこの人数見ると、こういう感じではありますが、19 人ですからこの人数とみることができそうですが、議員定数を考えてここから委員会と考えていくことも可能なのかなと感じます。ですから、広報広聴委員会を除いて総文が7 人、民生が6 人、産建が6 人とこの人数でやっておりますが、その中で本当に委員長が中間の立場と考えると、議論する難しい場面もあるかなと思いますが、少なくともその人数なりで、議論を深めることも、さらに研さんしていくことも可能ではないかなと感じます。

○委員長（小田新紀） そのほか、いかがでしょうか。

この議論の中で、例えば、今の構成人数を維持したから、結果として議員定数減らさないとか、増やすというような結論には至らないかなと思っています。

あくまでも一つの委員会の数として、議会の役割を果たすために、最低どの程度の人数が必要なのかということを議論した上で、その数がある程度出てきたら、そして次はですね、委員会の皆さんからのご意見もありましたけれども、委員会自体の数をどうするかとか、ほかの町みたいに重複してというような方法もあるかなと思うのですがそういった議論に移っていこうかなと思っていますが、改めて数の部分で、こうあるべきだということがございましたら、重ねてでも構いませんのでご意見ありましたら、挙手をお願いします。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 私もこの人数の中で、行政の中をきちっと所管していくということでは、ぎりぎりではないかと思っています。荒委員も発言しておりましたけれども、合併して忠類のところもありますし、広報広聴委員会を除いて、三つの委員会では、この人数がもうぎりぎりの人数と私は考えています。

○委員長（小田新紀） そのほかございませんか。

みなさまのご意見をお伺いしますと、今の幕別町の常任委員会の人数については基本的には、減らすような人数ではない。ただ一人、若干減ったとしても何とかやってくれるのではないかというご意見も、いただいたところではあるかなと思います。少し減らしても何とかやっていけるのではないかという可能性も、少し頭に入れつつも、一定程度、多かった意見として、現在の人数自体はキープすべきではないかという意見が多かったということも踏まえながら、次の話に移っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

その上で、常任委員会の数ですね、先ほどの議論の中でも、二つにしてもという考え方もあるのではないかというご意見もありましたが、ひとまず今の委員会の構成人数を最低限維持するという視点の中で、委員会の数をどうするかということで、まず

ご意見をいただきたいと思います。

今は総務文教7人、民生6人、産業建設6人、大体この6人、7人といったところであります。まずは一つの委員会の人数を維持するということを基に、委員会の数は今の3のままでいけるのか、あるいは違う形にするのか、そういったことも踏まえて、ご意見をいただければと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 委員会の数を動かすのもあるのですが、実質広報広聴委員会に入っていたり、委員会ではないけど、議員会の役割あったり、重複している方もいらっしゃいますよね。先ほども申し上げましたけれども、人の少ないところは重複してやりくりしていますので、例えば、今の状態で少ないと、8人ぐらい欲しいという場合であれば、逆に重複も認めて、そういったことでも増やせますし、逆に委員会を少なくするのであれば、当然そういうことにもなっていくという部分もありますので、そういうのも加味しながら、人の融通を利かせれば効率的に動くのかなとは私は思いました。

○委員長（小田新紀） 基本的にはこの3常任委員会という状態のままということで、よろしいですか。

そのほかご意見いかがでしょうか。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） これ前のこと言って、申し訳ないのですがけれども、私は産建にいたのですが、途中から芳滝議員がいらっしゃらなくなって、人数が減ったのですが、5人で産業建設常任委員会ということで、視察をしたり、所管事務調査をしたりしたのですが、人数少なければ少ないなりに和気あいあいといろんなところのその専門家がいたりということで、すごく楽しくこの2年間活動させていただいて、いろんな知識を自分で吸収することもできたのですよね。ですから、人数が多ければ充実しているとか、人数が少ないから意見が出ないという考えではなくて、人数少なくても少ないなりの本当に委員会として、それなりにいろんなことを次の委員会にこういうことをして臨もうという思いで、委員会が開催されていたと私は思うのですが、そのようにやはり少なくても、取り組むことはできるかなと感じました。

○委員長（小田新紀） 一つ目のお話も当然含んでくるかなと思います。人数的なことも、今の議論、それらも含めて、意見をいただいてもいいのかなと思いますので、どうでしょうか。

荒委員。

○委員（荒 貴賀） 前のときもお話したのですが、私たちが審議しなくてはいい、見なくてはいいものってすごく増えてきたなど、私まだ3期ですけど。一つひとつの計画がものすごく細かく分厚くて、一つひとつのその政策が、いい意味ではちょっと充実してきていると言ったらあれなのですが、すごく大きいなと感じています。やはり、そのことが住民にとってどうなのかっていうことがやっぱり私たちが果たさなければいけない役割であって、これをやっていく中で、今、岡本委員から少ない人数でもやれるって話がありましたが、確かにそうなのです。人数少なくなれば、少ないなりに工夫して取り組むということは可能なのかもしれませんけど、でも、やはり議会として必要な監視や、そういったものを精査するには一定程度の人

数がいて、審査して、その中から、先ほどおっしゃった専門家ですとか、いろいろな人達が入る委員会があるからこそ今、ぎりぎりの状況でなっているのではないかと思います。やはり私的には、委員会を減らしたり、人数減らしたりするということは厳しい状況で、三つの委員会で、この人数、総文は7人と言っていますが、実際は、議長は辞任しますので、すべて6人で行っている状況ではここを減らすということは、やれなくはないですけどもやはり厳しい状況は間違いないということは思っています。

○委員長（小田新紀） 内山委員。

○委員（内山美穂子） 最初のときに、類似団体との比較ということで自分の考えを言わせていただいたのですけれども、幕別町は忠類の問題もあり、近年はいろいろ内容的にもすごく深く幅広くなっているの、なかなか一つの常任委員会でも、所管が広いのかもしれないのですけれども、例えば、ほかの議会でも少ない人数でやっているところって実際に運営に支障を来しているのかどうかというのは、わからないわけですよ。なので、この先ほど岡本委員が言ったこともわかるのですけれども、常任委員会自体の再編というのを議論して、考えることは必要だなと感じます。

○委員長（小田新紀） 具体的に再編といいますと、例えば二つ・・・

○委員（内山美穂子） 三つある常任委員会を二つに再編することはできないかどうかということです。

○委員長（小田新紀） 田口委員。

○委員（田口廣之） 今3常任委員会ですけれども、専門分野、農業だとかいろんな産業がある中もあるし、教育関係とかいろんな分野があるのですけれども、専門分野の知識がある人が集まっている委員会ではないと思うのです。その中で、知らないことの勉強も出てきたりする中で、委員会は細分化されていると思うのです。委員会というのは、やはり専門的な知識がなくても、調査研究することというのは、すごく深くなると思うのです。農家だから、農業のことに精通しているかと言ったら、新しい技術が出てきたり、自分たちも知らないことたくさん出てきたりもしていますので、そういう新しい産業の取組、行政もそうなのですけども、そういうことに対応するためにはやはりね、この委員会の数は必要ではないかなと思います。

○委員長（小田新紀） 内山委員。

○委員（内山美穂子） 田口委員の意見もわかります。実際に、二つの常任委員会で、行政事務って自治体によって、かなり違ったりしないので、2常任委員会でやっているところって、どういう分け方をしているのかを調べるのもいいかなと。それが果たしてうちの町には合っているかどうか、合っていないということになるかもしれないですし、そういうことも必要ではないかなとは思っています。

○委員長（小田新紀） 野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 今、さまざまな意見が出されました。二つか三つか、また所管事務の内容をどうするか、みなさんそれぞれ考えられていると思います。私は今、国とかそういうところから委任事務、地方に随分、仕事は委任されております。そうなりますと、やはり一つひとつの常任委員会で行う所管というのは増えてきていると私は思います。ですから、そういうことを考えると、やはり三つの現状で、きちっと議員が学ぶことと同時に、これは幕別町にとってどういう働きをするのかということまでやはり学んで、町政に反映させていくという立場に立たなきゃならないと思い

ます。今、田口委員が発言されたのですけれども、本当にそうだなと思うのです。議員はそれぞれ、専門の知識を持っている方もおりますけれどもそうでない方も議員になっております。ですから、所管することで学ぶこともありますし、それをきちっと、議会に反映させるということは町民に反映させるということに繋がりますので、そこではまだまだこの所管事務調査、三つの常任委員会では、日数から見ても、件数から見ても、不十分ではないかと改めて思って見ております。そういう中では、もっともっと、三つの常任委員会が、さまざまな所管事務調査をすべきでないかと、数字から反省点として見ているのですね。そうすると三つでもまだ所管が少ないかと思っていますので、これが二つになったら、ますますこの2年間でやることが増えますよね。それでいいのかと私、疑問に思って聞いていたのですよ。他町村の事例も確かに必要かもしれませんけれども、私たちこの議員として今、1期目の方は、3年目に入りますよね。議会と町民と、それから行政の関係って、だんだんみなさん学んできたと思うのですね。そこから見てどうなのか、幕別町としてどうなのかということをもっと、掘り下げて考えていくべきではないかと思います。

○委員長（小田新紀） いかがでしょうか。

酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 私は5月から民生常任委員会になったのですが、示されている所管の範囲、防災から子どもから福祉からいろんな範囲があって、それ自体すごく課題がたくさんあると実感しているのと、いろんな分野について、国の制度が変わるスピードもすごく早いなど。例えば、義務教育学校が入ってきますよとか、防災も、いろんな災害が激しくなって、基準が変わっていくとか、デジタル化が進むだとか、行政の動きが早い印象がありまして、そういうことにもきちっと、遅れずに認識を共有して、幕別町にとってどうかって判断していく上では、やっぱりたくさんの項目を抱えた委員会だとちょっとそこまでするのは、大変かなと感じていまして、今の三つを減らすというのはちょっと無理があるかなと思います。

○委員長（小田新紀） 二つの常任委員会にしている町の状況も、確かにわからないとは思いますが、それをいちいち調べるという話にもならないと思いますので、そこはちょっと各自の宿題かなと思うのですけれども、二つの常任委員会にしているところも、定数が減ったから二つにしたのか、二つであるべきだと考えて、主体的に二つにしているのか、ちょっとそこら辺も、頭の中に入れながら考えなきゃいけないかなと思っていますところであります。みなさんの意見では、3人今の形で、逆にこの三つの委員会の中で、さらに、調査すべき内容も増えてきているし、もっと本当はやらなきゃいけないのではないかというご意見が多かったかなということでは、三つを維持していくべきではないかという意見が多かったかと思っています。またその中で重複するというご意見もありました。その辺の細かいところはまたちょっと今後の議論になるかなと思いますが、どうでしょうか、三つということは、これから基本線として、最後の皆さんの、判断に至るまでに、三つというのは大きな委員会の構成として頭に入れていただくといったなかで、判断していくべきかと思っています。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 今、常任委員会を二つにするか、三つにするか議論していて、議員定数を少なくして二つなのか、現状で、二つなのかということをも、委員長、発言されたのですけれども、二つでも、今の議員定数で二つにして重複するのか、それ

とも定数を変えて二つにするのかというのとは、ちょっと違ってくるのかなと思ったのですよね。私はどっちにしても、重複するということはそれぞれ所管の数が増えるってことに繋がるので、ここのところはどうなのかなと疑問に思ったのですよね。今議論しないで、あとで議論するという話だったと思いますが、それはどのように判断したらいいのでしょうか。

○委員長（小田新紀） この議論の中では、三つがいいのか、二つがいいのか、もしくは違う別の形がいいかという常任委員会のほかの町も参考にすれば、二つにしているところもあるというところで、ある程度絞った議論と考えておりましたので、概ね三つという中で方向性としては考えていけばいいのかなという思いでいます。その上で今後わかりませんが、現時点では、三つにした場合7人、6人、6人という人数。その中で先ほどの塚本委員の意見を、私がとらえた形で言えば、今の数の状態でもちょっと足りないときもあるのではないかと押さえるなかで、重複するという押さえでいましたので、それについては、あとで議論するほうがいいのではないかと考えていましたが、間違っていないのでしょうか。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 二つにせざるを得ないときでも、あるいは議員定数が削減されたときでも、その重複して委員になることで、数はキープできると。そうやっている自治体も結構ありますので、なのでそういうことを認めつつも、柔軟にやれると思います。今の状況で、実質18人のなかで、6人ずつで議論をするのは委員長を除いて5人というところで、やはり7人が必要だとなれば、もう重複せざるを得ないという話になってきますので、そういった部分も7人は欲しいという話であれば、そういったことも誰がやるのかはまた別の話ですけれども、重複する人は負担が増えますけれども、実質、委員会でも広報広聴委員会やそれ以外と兼ねている人がいるというのも現状であるわけですから、そういった部分を含めれば、人数は調整できるのではないかと思います。

○委員長（小田新紀） 確認ですけど、基本的には常任委員会三つであったほうが良いという考えの下で・・・

○委員（塚本逸彦） 現状であれば三つなのですけれども、早い話、議員定数が削減になれば、三ついるかどうかというところまでは、まだ至っていないのですけれども、三つであれば重複することに当然なってくるので、やはり1委員会あたり6人でいいのか、7人か8人に増やすにはそういう方法しかないのかなと。なので、絶対に3常任委員会ないといけないということではないです。

○委員長（小田新紀） わかりました。

その上で、ありますか。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 今、重複するかどうかというそういう部分は後で議論するって、委員長おっしゃったので、私はそこも含めてね、今、議論したほうがいいのではないかと考えたのですよね。あとで、重複するところを議論して、委員会いくつにするかっていうことよりもそれも含めて議論して、今後の方向性出したほうがいいのではないかと私は思ったものですから、皆さんと考えるかわかりませんが、そう思って発言しました。

○委員長（小田新紀） はい、ありがとうございます。

私も塚本委員の意見ご意見改めて聞いて、あわせて話したほうがいいかなと考えております。

石川議員。

○オブザーバー（石川康弘） 少し意見を述べさせていただきたいと思います。

今の委員会の数もそうですけども、私たち一人ひとは、やはりそれぞれ専門分野はあるかもしれませんが、私たちは議員になった以上は、町全体のことについての知見を高めていかなきゃならないし、当然、どこの分野に行っても、やはり意見を述べられる状態で、やはり議員となる必要があったのだと思うのですよね。だから農業だから、農業専門で来ましてはなくて、例えば、私も去年から農業やっていますけれども、そういうことじゃなくて、やはりほかの福祉についても教育についても、いろんな分野について私たちは知見を高めていかなきゃいけないと思うのです。そうすると、先ほどから所管事務調査が増えるという話もありましたけども、これは私たちが知見を高めて、それぞれについて専門性が高まるにつれて、クリアしていくことができるのかなと思うのですよね。ですから、先ほど塚本委員がおっしゃいましたけども、そういう重複する形もありで、私、民生常任委員会ですけれども、総務文教常任委員会をもっとやりたいという思いもありました。でも、なかなかそれはかなわないわけですが、でも傍聴として私たちは出て、意見を聞きながら、知見を高めているのですけれども、そういった意味から言えば、少ない人数でも、専門性を自らが高めてそして、やはり競争原理、これが働かないと、私はどうしても知見は高まっていかなないのかなと思うのですよね。誰かに専門的なことがゆだねてしまう。そういうやはり人として傾向があるのかなと思うのですよね。そういった意味では、少人数でもほかの地区でもやっている町はあるわけですから、そのところは、いくらでも僕らはクリアしていくことができるのかなと思うのですよね。だから、それぞれやはり町全体の知見を高めて、本当に取り組む。そして、ここに委員会の日数とか出ていましたけども、ほかの町が、どのぐらいやるかわかりませんが、もっと増やして、本当に議論していけば、そういったことは、所管事務調査が増えてもね、クリアしていける可能性があるし、あともう一つは、私たちを、選挙を通じて、出てきているわけですが、町民の人たちがやはり、このことについてどう感じているのか、そこも非常にだと思うのですね。私はそういう意見も聞きながら、ここに出ているので、当然削減という形で、思いを持ってここには出ているのですけども、そういったことも含めてね、町民の思いも含めてやはりここで議論しなきゃいけないのかなと感じています。

○委員長（小田新紀） 改めて、みなさんから出てきたご意見から先ほど重複するというような案も含めて、重なる意見になるかもしれませんが、改めてみなさんのほうから、ご意見がありましたら承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

議会事務局長。

○事務局長（佐藤勝博） 参考までに、本日資料はお示しできておりませんが、常任委員会の複数所属について、他自治体の状況を申し上げますと、全道129町のうち63町、割合でいうと48.8パーセントの町で行われています。主な傾向といたしましては、幕別町のように広報広聴委員会を常任委員会としている自治体が多く、広報広聴委員会とそれ以外の常任委員会との複数所属が多い状況にあります。また、全国916町村のうち423町村、割合でいうと46.2パーセントの町村で複数所属が行われています。

さらに、十勝16町のうち9町、割合でいうと56.3パーセントで複数所属が行われており、具体的には幕別町、清水町、足寄町、新得町、大樹町、本別町、鹿追町の7町では広報広聴委員会との複数所属であり、豊頃町、陸別町では二つの常任委員会で構成されており、その二つに複数所属されている状況であります。

それから、広報広聴委員会を常任委員会としている自治体は、全道129町のうち42町、割合でいうと32.6パーセントであり、また、特別委員会として設置しているのが、129町のうち65町で、割合でいうと50.4パーセント、さらに広報広聴委員会等は設置しないで、議会運営委員会の中で、その役割を担っているのが7町、5.4パーセントであり、十勝管内では芽室町と陸別町であります。

- 委員長（小田新紀） ちょっと私の進め方も悪くて申しわけないのですが、今日の時点で、例えば委員会の数を決めるとか、何かを決めるとか、人数決めるということではございません。あくまでも最終的な判断のための材料となるような議論になればいいかなと思っているところであります。今の事務局からいただいた委員会の他の町のですね、実態も参考資料として押さえておいていただきたいと思いますし、また、石川議員からも意見ありましたが、町民の声とか地域の声とかも今後の最後の判断のときには必要かと思うのですけれども、今日の時点ではですね、議会としての役割をしっかりと果たすために、幕別町においては一つの委員会が何人必要であって、その常任委員会の数がいくつあるべきか、そういったことに絞って、意見を言っていたいて、最終的な判断の材料にさせていただきたいと思っています。いろんな町民の声等もあると思うのですけれども、そこを入れてしまうといろんな意見があって、複雑になってしまうので、そういったことは皆さん頭の中にも入っていると思うのですけれども、今日の議論の中では、そういったこと、本来のあり方について絞って、改めてご意見をいただければと思っております。

酒井委員。

- 委員（酒井はやみ） 先ほどご説明いただいた中で、分かればなんですけど道内129町のうち63町が重複で、広報広聴委員会との重複が多いとのことだったので、広報広聴委員会ではない常任委員会との重複がどれだけあるかというのはわかるのでしょうか。

- 委員長（小田新紀） 議会事務局長。

- 事務局長（佐藤勝博） 広報広聴委員会以外の常任委員会による重複は27町であり、割合では約2割です。主には、議員定数が10人程度の自治体が多く、二つの常任委員会で構成され、大半の方が重複して所属されているという実態でございます。

- 委員長（小田新紀） 酒井委員。

- 委員（酒井はやみ） ありがとうございます。

重複ということになれば、結局1人が関わる所管の範囲が広くなるということには変わりないので、一人1常任委員会の今の状態よりは負担が大きくなるということになるのかなと思います。それだったらあんまり意味がないかなと。今の三つだった三つの範囲の中で、より議論をしていって、深められるような体制のほうがいいのかなと思いました。

- 委員長（小田新紀） そのほか、改めて何かありますでしょうか。

大体、意見が出たかなというところではあります。時間も1時間経ってきておりますので、この件に関して、ご意見がなければ次の段階ということになります。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 負担の話になってくると、常任委員会の負担が増えると考えなのか、議員の負担が増えると考えなのか、負担が増えるかどうかはわかりませんが、結局はトータル的な議員定数の影響が大きいのではないかと私は思います。議員定数が決まらないのに、常任委員会を三つにするのか、二つにするのかというのは、なかなか話の持っていく方が難しいと思う部分もあります。どうしても、私の中では、絡んでしまうので、やはりトータル何人だということになってしまうので、結論の出ない意見で申しわけないのですが、そこはちょっと難しいかなと思います。

○委員長（小田新紀） 石川議員。

○オブザーバー（石川康弘） 塚本委員の意見に近いのですが、まだやっていないうちに負担がどうのこうのというのは、ちょっと違うかなと思うのですよね。先ほども言いましたが、当然、委員会の回数をもっと増やすとなりますよね。今、報酬の問題は切り離してとなっているので、言いにくいのですが、やはり報酬は大きく絡んでくると思うのですよね。回数出れば出るほど、私たちの負担が大きくなるわけで当然、報酬をやっぱりもっと上げてもらわないとできないという意見も当然出てくると思うのですよね。だから、それを切り離して議論しているので、非常に難しいと思うのですが、報酬も絡んでくるのであれば、当然定数は減らさないといけない。その分私は、やはり議員としての専門性、やっぱり資質、それぞれ深めて、高めてやっていければ、順次クリアはしていけるのかなと思います。議員として、そうしなければいけないと思います。

○委員長（小田新紀） 野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 最初に、委員長の仕切りとしては、議員定数は今、この委員会では議論しないけれども、常任委員会をどうするかという範囲で議論するというスタートでしたよね。ですから、定数とか報酬とかはここでは議論しないという提案でしたよね。そうしますと、今、定数を考えないで委員会を二つにしたらどうなのか、三つにしたらどうなのか、またそれ以上がいいのかというそこだけの議論で進めているという認識でいいのですよね。

○委員長（小田新紀） はい、そうです。

ありがとうございます。

最終的にはもちろん議員定数のことで、これは話し合っていることですので、そこにたどり着くわけですが、まずやっぱりいろんな材料を集めた上で、議員定数の議論というところに最後いくことになりますし、もっと先のことを言えば、定数が決まってきたら、今度は報酬どうするかというような議論になりますが、先ほど石川議員のお話もあったとおり、仕事の量が増えれば、今度は報酬がというような話も出てくるかもしれませんが、まずは、適正な議員定数に行き着くための、これまでの7回までの議論も当然、その材料になってくるわけであって、プラス今回の議論っていうところで、ある程度みなさんの中で方向を決めていただきたいという思いであります。

常任委員会の部分ということで、改めてご意見があれば伺いたいと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 本当になかなか難しい問題だと思いますが、現状の委員会は、議長が除かれて実質18人で、小さくても、中身の問題という意見とあったのですが、

も、現状として、今の人数でいいのかということですよね。それで、足りないということであれば、兼任するしか増やす方法はないわけですから、その委員会当たりの人数は何人がいいのかという話にもなってくると思うのですよね。現状として、機能していないのかというと、それなりに機能しているとは思いますが、今後もっと複雑化する付帯決議とか、そういうものが出てきた場合には、あれなのでしょうけれども、どうなのでしょうね。僕としては、現状でも機能はしているのではないかとってはいるのですけれども、それをもっと増やしたいのであれば兼任するのか、委員会を統合するのかわからないわけですから、定数を加味しないとなったら、そういう議論になってくるのかなと思ったのですけれども。

○委員長（小田新紀） 荒委員。

○委員（荒 貴賀） 人数減ってどうなのだと、やっているのか、現状厳しいのかというお話があったのですが、岡本委員が先ほどおっしゃったとおり、少ない人数もやれていますよと、そうだと思うのです。少ない人数であれば少ない人数でやるのですよ。ただそれが住民にとって、しっかりした審議になっていたのか、これからもできるのかって言うところがもっと重要だと思うのですよね。そこを抜きにして人数がどうかって言うところを考えるのは、どうなのかなと。だからこそ、私は、増えてきている町からの提案や、審議しなきゃいけないものを見たときに、この人数を少なくする、もしくは、一人ひとりの委員会の負担が増えるということは、厳しいと思っています。他の町村が5人というところもありますけど、そこはそこなので、幕別町が今までどうしてきたのか、今後どうしていくのかと考えたときにはぎりぎりだと私は感じます。

○委員長（小田新紀） 今の議論については、一つ目のということで、そこも議員定数を考えないで、人数どうなのかということでみなさんに意見を出していただきまして、ある程度、減らしても何とかかなというご意見もありながら、今の人数については一定程度キープしないと、難しいのではないかという意見が多かったのかなと押さえております。

今日、そういった視点の中で絞って意見をいただきました。酒井委員はちょっと今回初めてですけど、これまでの議論を聞いていただいたと思いますので、これまでの議論をもとに、次の委員会においては、いわゆる議員定数どうするかという方向で、ご意見を賜りながら進めていきたいなと思います。その前にもうちょっとこの視点で話をしておきたいとか、これについて議論しておきたいというのがありましたら、もちろん、そういった積み重ねをしていきたいと思いますので、もし今の段階でみなさんからあれば、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

次、何が何でも決めるということではないので、ただ今後のスケジュール等を考えていけば、次回、しっかりした議論のもとで、判断をするべきかと私は考えております。まだまだそのあとのほかの議論等もありますので、ちょっとそういったことを踏まえて、もし今、懸念点や、もっとこういうことについて知りたいというのであれば、次の委員会までに、それぞれしっかりと調査をしていただいて、ご意見を持ってきていただければと思います。

そのような方向性でよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○委員長（小田新紀） それでは、続いて2点目の今後の進め方についてを、ご議題と

いたします。

事務局に説明を求めます。

議会事務局長。

○事務局長（佐藤勝博） お手元には、資料を用意しておりませんが、今後の進め方といたしまして、大まかなスケジュール感を申し上げたいと思います。

現在、議員定数について議論していただいておりますが、このほか議員報酬と政務活動費を含めた3項目を議論すべきテーマとしております。今後のことを考えますと、議会としての基本的な方向性や考えを整理することに加え、住民の方々への説明や意見聴取の手法についても協議しなければならない、その上で住民の方々に説明し、住民の方々の意見を十分にお聴きした中で、議会として最終的な結論を見いだしていかなければならないものと考えております。さらに、議員報酬の見直しにあたりましては、議員報酬審議会への諮問や答申を踏まえ、条例改正を提案するといった過程が必要になると考えておりますので、これらの過程に時間を要することを見据えますと、当初のスケジュールからは遅れることとなりますが、議員定数に加え、議員報酬や政務活動費を含めて、本年9月をリミットとして一定の方向性を出して進んでいかなければならないものと考えております。様々な視点で深い議論が必要でありますことから、これまで本日含めて8回の会議を重ねてきましたが、今後も、一定の時間と回数が必要になるかと思えます。非常にタイトな日程になると思いますが、議会として議論を尽くし結論を見出だしたうえで、住民の方々にもきちんと説明をしていかなければならないことを考えますと、そのようなスケジュール感を念頭にに入れていただきながら、この委員会の議論を進めていただきたいと思います。

○委員長（小田新紀） 今、説明がありましたが、確認すべきこと、質問等ありましたら、挙手をお願いします。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） ないようですので、そのような日程を頭に入れながら進めていきたいと考えます。

そして3番目、次回の委員会の開催日程になりますが、6月下旬もしくは7月上旬あたりで開催したいと思っておりますが、みなさまのご都合をまず伺いたいと思いますが、ご都合の悪い日はありますでしょうか。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 7月になりましたら、札幌の研修も入ってくるので、もう少し議論を深めるという思いから、6月できるうちに開催したほうがいいのではないかと思います。今までを見ましても1か月に1回ぐらい、議運の後とかという状況になっているので、6月議会は25日で終わりますが、できる範囲で回数重ねていったほうがいいのではないかなと思います。

○委員長（小田新紀） 暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（小田新紀） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

6月25日の午後1時30分ということで、いかがでしょうか。

暫時休憩します。

(暫時休憩)

○委員長（小田新紀） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次回の開催日程については、6月25日、本会議終了後に議場でということでよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○委員長（小田新紀） では、4、その他に移ります。

みなさんから何かございますでしょうか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） 事務局からは何かありますか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） では、以上をもって本日の案件は終了いたしました。

これをもって本日の委員会を閉会いたします。

(11:23終了)